

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392400075		
法人名	有限会社 ケアシステム・ピュア		
事業所名	グループホーム谷崎		
所在地	熊本県玉名郡南関町相谷1791番地3		
自己評価作成日	令和5年 1月 13日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に沿って日々、健康で生き活きと暮らしていけるように様々な努力を行っている。まず、毎食後の口腔ケアに力を入れていて歯科衛生士や訪問歯科との連携を通じ、沢山の口腔ケア用具の使用、食事前の口腔体操等で口腔内の健康を保っている。午前中は体の機能維持のために体操や歌を歌ったりしている。日々の体調の変化等を毎日のバイタルチェックで確認し、異変などがあればすぐに主治医に相談をし密に連携をとっている。地域の人々と密に連携を取るために挨拶はもちろんとして地域の活動、又行事等を積極的に行っている。南関町役場の福祉課、地域包括センターや社会福祉協議会等と日常的に情報共有をし、協力体制を取っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来より地域の中での「生活」を大切にされている事業所では、入居者それぞれ、一人ひとりの生活の営みがあります。コロナ禍であったこの数年も、感染対策を行いながらできるだけ家族や地域からの来訪を受け入れ、少人数ではありますが家族会も行われています。食事も地域食材をふんだんに使い、入居者に馴染みのある献立を手作りで提供されています。法人全体で地域との連携の姿勢が掲げられ、職員の家族・地域の方々の健康維持・促進にも取組まれています。訪問時にも入居者の傍らには職員の姿があり、声を掛けたり体に手を添える姿は日頃の様子であることがうかがえました。車椅子を利用して入居される方にも、できるだけ歩いて頂きたいとの思いで支援をされており、入居者の「思い」「希望」を第一に支援を行う様子うかがうことができました。職員面談でも施設長の思いをしっかりと受け止めケアに向かう姿がありました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和6年 2月 2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い出勤時に声に出して読むなど毎日確認することができ、社内研修にてお互いに共有することが出来ている。	職員入職時に理念の説明を行っている。年間を通じ、夜勤の職員研修、更に通常の研修の際は理念に触れ、理念に沿った介護ができていないか振り返る機会を持っている。日頃より、出勤時には必ず理念を読み、課題等見られた際には理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域貢献を行うために事業所周りの環境整備、地域の方を招いた会議等を行い交流を深めている。また当事業所が地域の区員として登録されている。	事業所は従来より地域との交流が盛んであった。数年コロナ禍で入居者を交えた交流が難しい状況も見られたが、隣接する小学校との交流も再開予定であり、運営推進会議や日頃の生活を通じて地域との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や集い時に身の周りの方が認知症になった等相談を受けたり、色々な支援の仕方を自分たちの知識・経験を活かして解決に向けて一緒に話し合うことが出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年数回行われる会議にて現在取り組んでいる内容等について話し合い、その結果、意見等があれば都度職員会議などで共有している。	昨年度から対面での会議を再開し活発な意見交換を行っている。地域小学校よりも参加頂き、地域住民や入居者家族代表も交え、地域・家族・事業所共に入居者を支え、地域での生活を支えるための会議となっている。今年度は避難訓練時の地域への声掛けについても意見交換できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町のケア会議に出席して意見交換を行っている、社会福祉協議会や包括センターとも密に連絡し合い町の困りごとの共有を行っている。	運営推進会議等で事業所の日頃の取組を伝えている。例年行われる包括支援センター主催のケア会議では課題の共有や意見交換、年間の課題の振り返りと説明等もあり、各事業所他職種担当者による情報発信や意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3~4か月に一度研修を行っており、身体拘束の周知徹底に努め、都度状況を確認し、身体拘束に該当しないか職員同士で確認している。	年3~4回法人内で身体拘束に関する研修・勉強会を行い、運営推進会議及び町への報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員のストレスチェックを行い、健全な気持ちで介護に臨めるようにしたり、監視カメラの設置により万が一虐待があっても見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修等で話し合いなるべく利用者様の立場になって尊厳を守れるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の説明をしっかりと行っている。LINE、メール、電話、直接面談等日々行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施、運営推進会の実施により状況・情報を共有し、何か問題があれば相談しながら解決している。	電話・メールの他可能な家族にはLINEも活用した報告等で入居者の情報を共有している。コロナ禍では窓越し面会に備えベランダにスロープを造る等で、できるだけ面会を受入れ、家族からの意見も出しやすい関係作りを行っている。家族会も感染対策のもと実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内グループLINEを利用したり、管理者等に話しやすい雰囲気づくりに努め良い意見があればどんどん取り入れるようにしている。	月数回の研修・会議等の他、管理者は日頃から職員への声掛け等で意見を表しやすいようにしている。職員間でもLINEを利用することで情報を共有し、意見を出しやすい体制作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当有り。 資格取得の為の支援制度を導入し各々がやりがいを持って挑むことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務経験が長い職員と一緒に働くことにより様々な事象に対応できる職員の育成、研修があれば積極的に参加するように声掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やその他さまざまな講習会への積極的な参加の呼び掛け、同業の方やそれに関連する人との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を知り、本人の意向に沿ったサービスを提供することで安心と信頼を感じてもらえるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅ケアマネから情報を集めて認知症カフェにて2,3回話し合い、入所につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者、管理者、ケアマネが利用者の初期状況を理解し、ニーズに沿った計画を家族に確認してもらいサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食事の片づけなど利用者の残存能力を活かして共同で作業をすることがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を受け入れ、選挙の投票や病院受診、買い物など家族と事業所が連携して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、利用者へ声掛けを行い、面会者と本人の関係を確認したり、目線が合うようにサポートする。	コロナ禍であるこの数年は以前のような関係支援は難しい状況であったが、知人・以前の入居者家族の来訪や声掛けが続いている。家族との関係が希薄にならないよう、窓越し等での面会を受け入れ、入居者の希望があれば一時帰宅も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であることを理解して頂き皆で支え合うことが出来るよう役割を与えたり交流の場として体操、レクリエーションを開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け付けており、サービス終了後もご家族の方が色々なことに協力して下さったり、こちらからも様子がわかるようにレクリエーション等に参加を促している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り利用者の思いや意向を受け入れられるよう職員で日頃の様子を共有している。	生活の中で職員の寄り添いや声掛けで入居者の意向を把握している。以前からの生活歴や入居後の様子の把握から、日々の生活は入居者それぞれの日課で過ごしている。意向が出にくい際には選択を促す言葉掛けを行う。	入居者の高齢化や介護度が高くなったこともあり、思いや意向を表すことができる入居者が少ない状況も聞かれました。選択を促す言葉掛け等の工夫の継続に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査でアセスメントシート等を利用し把握することが出来ている。 その内容を職員にも共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を行うことにより、一日の過ごし方や変化などを知ることが出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や日々の生活で見えてくる改善点・課題点などを考え、家族の方や地域の方、医療関係者などに相談しながら介護計画を考えることが出来ている。	職員会議時に入居者一人ひとりについて職員の意見を出し合い、日頃の入居者の意向や課題等に加え、家族の意向・医師の意見も取入れ、介護計画の作成・見直しを行っている。担当者会議にはできるだけ家族の参加も依頼している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録用紙の記入を行い各々確認することができ、申し送り等も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体の状態に合わせた介護用品の使用、利用者様の声を聴き、すぐに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣の小学校の小学生との交流や自然豊かな景色を楽しみながら天気の良い日は散歩をしたり、田んぼの行事等の際は一緒に見に行ったりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と歯科医が往診に来られている。看護師はほぼ毎日勤務しており、バイタルチェックや治療、処方箋の管理を行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在は複数医師の訪問診療を定期的に受入れている。看護師資格を持つ職員も在籍しており、日々の健康管理や体調不良時の医療機関との連携もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも異変・気付きがあった場合すぐに看護師に相談するようにし状況によっては主治医に相談して指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し詳しい情報を提供している。退院前にはカンファレンスに参加して必要な指示をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに終末期の意向を家族と共有している。本人と家族の希望に合わせた対応を心掛け、同時に主治医とも相談してGHIにて最後を求められるときは出来る限り受け入れている。	家族の意向を確認し、入居者・家族が希望される場合は受け入れている。家族からの同意が得られる場合はLINEも利用し連絡を取り合い、情報を共有している。看護師資格を持つ職員もおり、医師等関係機関との連携のもと全職員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の研修会で勉強を行ったり、消防の方によるAED等を使った応急手当の訓練なども行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成はもちろん、避難訓練を年三回以上行っている。地域との協力も訓練参加まで得ている。	火災避難訓練を定期的に行っており、地域にも声掛けし協力を頂いている。反省時の課題は次回修正できるよう職員それぞれが意識して訓練に臨む。地域連携緊急連絡先として地域区長・消防団長も定めている。洪水(土砂災害時)の避難確保計画も定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を姓氏でさん付けで呼んでいる。居室やトイレ、浴室等に入る際はドアをノックして声掛けをする。その他動作の際など介助の際は都度声掛けをする。	事業所で一番大切にしていることであり、回覧・掲示で職員間で共有している。気になる言葉遣い等が見られた際には施設長より声掛けし、思いや感じることを回覧し共有している。研修・会議等でも職員へ思いを伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく簡単でわかりやすい質問をしたり、言葉が出ない方には表情で読み取ったり、本人の意向を聞き取りながら思いや希望に対してのケアを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度、状態によってはどのように過ごしたいのか表現することが難しい方もいらっしゃるが、なるべく希望に添えるようケアプランを確認し介護を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月ヘアカットを行っている。ご本人の気に入った洋服を持ってきてもらっている。洗顔、男性の場合は髭剃り、一日三回の口腔ケア等を日々行っている。起床時など朝忙しい場合少し手が行き届かない場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々献立を考え、メニューの説明、楽しく食事が出来るように心がけている。一人一人に合わせた食事形態を取っている。介助が必要な人にはその人のペースに合わせて食事介助を行う。	事業所内で手作りの食事の提供を行っている。農作物の豊富な地域であることから、米・野菜等は地元の食材も多い。食べられる間は美味しい物を美味しく食べて欲しいとの思いで取組んでいる。手作りのため、当日の体調等により臨機応変な対応も可能である。	食事介助が必要な入居者も増えたようですが、職員の皆さんも一緒に食卓に同席する等、共に時間を過ごす取組みを望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は日々記録しており、人によつての食べる量等を把握し、白ご飯が好きな方にはなるべく上に乗せないようにするなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎日3回行うようにして、歯科衛生士による定期的な口腔内状態把握により口腔内を清潔に保つことが出来ている。必要があれば訪問歯科により治療等も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行状態によってはきちんとトイレ誘導を行い、日々の排泄記録から排泄パターンを理解し、それに合わせた支援を行っている。	入居者それぞれの身体状況に合わせ、介助が必要な際には時間を見て声掛け等を行っている。夜間はポータブルトイレの利用もあり、それぞれに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操参加を促したり、排便状況によってはかかりつけ医に相談し、便秘の薬を処方してもらっている。ヨーグルトや牛乳、からいも等のなるべく繊維の多い野菜を使用したり、入浴後に野菜ジュースを飲まれる人もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんど全介助の方ばかりなので円滑に入浴できるよう、入浴時間を決めて入浴している。時間は決めてしまっているがその日のバイタルチェックの結果や本人の様子などに合わせている。	週3回入浴を基本としている。今年度は入浴介助について職員意見交換の場を持ち、本人の尊厳を守りつつ要望を聞き入れることができる方法について、共有及び対応の見直しについて話しあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自ら居室に行かれ休まれる方もいらっしゃる、自由に行き来できるようになっている。就寝時間は決まっていなかったが夕飯後は少し時間を置き、眠そうな様子が見られたら就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による毎日の服薬管理を行っており、それに従い介護職員は薬を提供している。間違いのないように服薬管理のための壁掛けも用意している。主治医と看護師の間で薬の相談等も行っており調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら動くことの可能な方には洗濯物を畳いで頂いたり、掃除を手伝ってもらったり、下膳・台拭きなど出来る範囲で行っている。ビールを飲まれる方や甘いものが好きな方には家族からの差し入れもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たい方には一緒に散歩をする。病院受診や買い物等はご家族の支援にて実行される方もいる。	外出の意向が見られる際には職員付き添いで散歩等に出向いている。家族協力のもと通院や一時帰宅もみられる。事業所敷地や近隣では花木等で季節を感じる事ができ、ベランダ等でも外気を感じる事ができる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金を持っておられる方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたり手紙のやり取りを行うことができる。できない方には施設側からも近況報告の写真と手紙を出すことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はすべて木造でできており、共用の空間をとでも広くとっており、職員も一緒に使っていけるように綺麗に保ち、過ごしやすい環境づくりに努めている。	木造で温かい雰囲気を持つ事業所では、入居者のリズムでそれぞれの生活が営まれている。訪問時にも入居者の傍らに座り、声掛け等でゆったりと寄り添う姿があった。車椅子利用の入居者も増えたが、バリアフリーであり、安全な生活に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファで日向ぼっこをされたり、利用者様同士で会話をされている。 自分の思った通りに動くことができるので、個人の居室に行ったり、ウッドデッキ、スロープを利用して中庭等に行くこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際なじみの物や家具などをなるべく持ってきていただき、毎日の清掃により気持ちよく居室で過ごすことができている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。家族協力も感じられる設えで、中には仏壇もみられる。清掃も行き届いており、入居者の動きにも配慮し安全確保も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で手すりやフラットな床、その他様々な工夫がされており、中庭を見ながらその周りを歩行訓練されている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム谷崎

作成日 令和 6年 3月 7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナウイルス感染症の影響で地域やご家族の方とあまり交流できていない。	コロナウイルスの感染状況が緩和してきたため、感染対策などを十分に行いより沢山の交流を増やす。	以前開催していた家族会、運営推進会、イベント等の行事を徐々に増やしていきより深い交流が行えるようにする。	一年
2	19	御家族の方々と連絡ツールを用いているが、利用者様の日々の状況をうまく伝えれていなかった。	日々の状況、様子などを今以上にしっかりと伝えていく。	些細な情報、日々の様子を綿密に伝えられるよう連絡を頻繁に行う。写真や動画など見て分かるものをなるべく添付する。	6か月
3	18	職員一人一人が日々の暮らしでのケアに対する意識をもっと高める。	食事介助、入浴介助などの場面でもっと利用者様の立場に立って考えることが出来る。	職員の研修等で介護に対する意識を高め、利用者様の気持ち等をより考えることが出来るようにする。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。